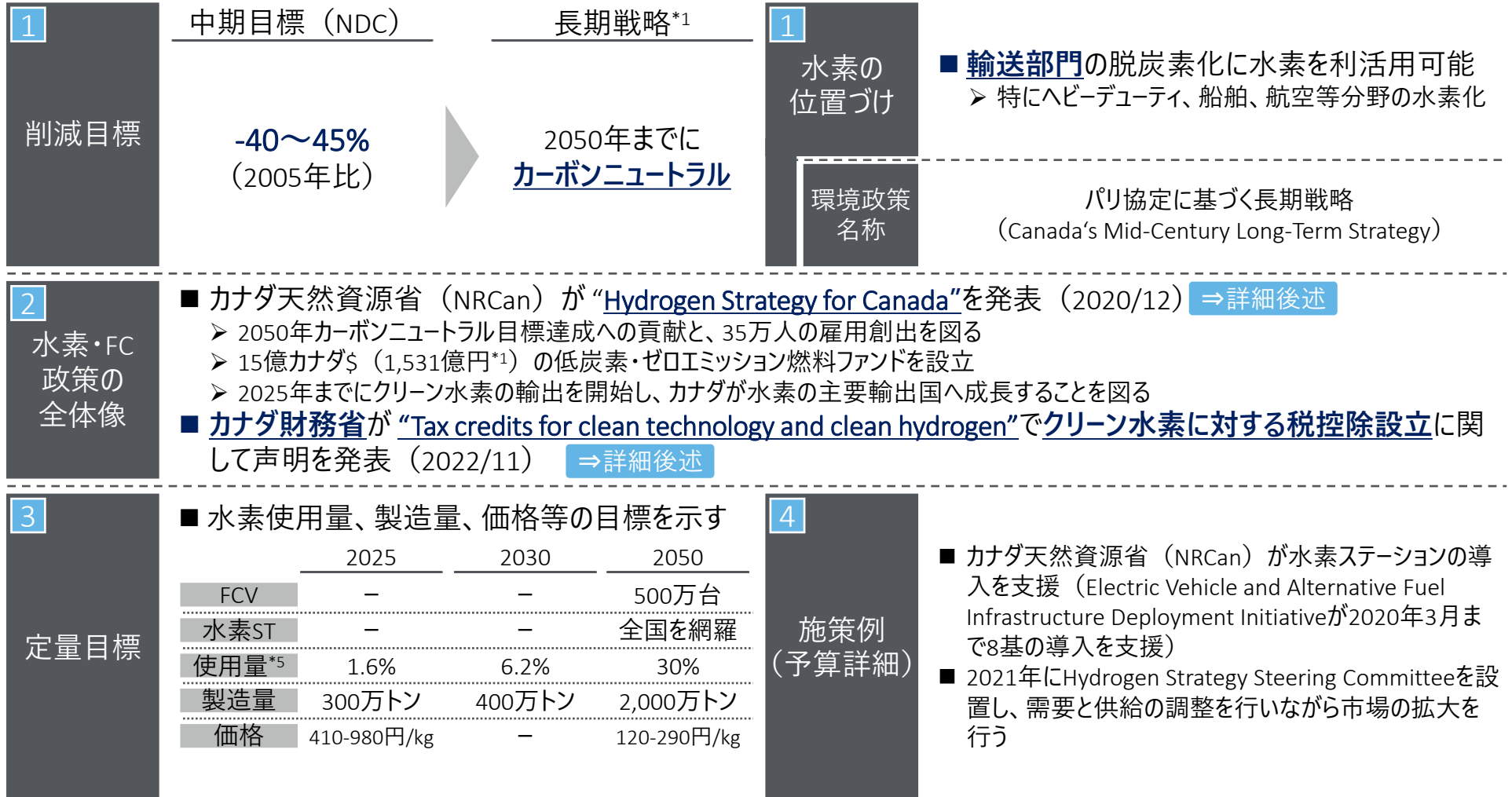




【国・地域別サマリー-カナダ】

カナダ天然資源省（NRCan）が2020年12月にカナダ水素戦略を発表した



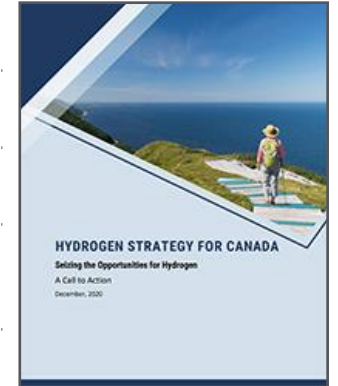
出典： UNFCCC、IPHE、Government of Canada、Government of Canada “Hydrogen Strategy for Canada”(2020/12) *1: 1カナダドル=102円で換算



<参考：水素・FC政策の全体像詳細>

2020年12月16日にカナダ天然資源省（NRCan）は、2050年カーボンニュートラルと35万人の雇用創出を図る目的で水素戦略を公表した

名称	カナダ水素戦略（Hydrogen Strategy for Canada）
策定主体	カナダ天然資源省（Natural Resources Canada）
策定期期	2020年12月16日
背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3年前から水素戦略を検討していた。 ■ 2050年カーボンニュートラル目標達成への貢献と、35万人の雇用創出を図る目的
予算	■ 15億CAD（カナダ\$）（1,230億円*1）の低炭素・ゼロエミッション燃料ファンドを設立（水素を含む）



戦略の柱	戦略的パートナーシップ	投資リスクの解消	イノベーション	規格・標準
	導入支援、法規制整備	普及啓発	地域での実装、水素ハブの形成	国際市場、国際連携

定量目標		水素使用量	水素製造量	水素の炭素強度	水素価格	FCV	水素ST	都市ガス代替	CO2削減量	業界売上高	
	2025年	エネルギー使用量の1.6%	300万t-H2/年 (高炭素)	< 36.4 gCO2e/MJ	5~12CAD (410~980円)/kg						
	2030年	エネルギー使用量の6.2%	400万t-H2/年 (低炭素)								
	2050年	エネルギー使用量の30%	2,000万t-H2/年 (低炭素)	さらなる低減	1.5~3.5CAD (120~290円)/kg	500万台以上	全国の充填インフラ整備	水素代替率50%以上	1.9億t-CO2/年	500億CAD (4.1兆円)/年	

その他特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ グリーン水素、ブルー水素（CCS付化石燃料の改質）、原子力発電由来水素を含む「低炭素水素」を促進していく。 ■ 米国（特に加州や東海岸）、日本、韓国、中国と欧州連合を水素輸出の主要な市場とする。
-------	--

出典：Government of Canada HP、Government of Canada "Hydrogen Strategy for Canada"(2020/12)、各種報道 *1: 1カナダドル82円で換算



<参考：水素・FC政策の全体像詳細>

カナダはクリーンテクノロジーとクリーン水素に対して税控除を行い、米国と同等の競争力を維持する

名称	クリーンテクノロジー・クリーン水素への税控除政策 (tax credits for clean technology and clean hydrogen)	
策定主体	カナダ財務省 Department of Finance Canada	
時期	クリーンテクノロジー：2023年～2035年（2032年より段階的に廃止） クリーン水素：2023年～（2030年より段階的に廃止）	
背景	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国のIRAにより北米の脱炭素は進むと予想されるが、米国企業への金銭援助が中心となっている <ul style="list-style-type: none"> ➢ 競争力のあるカナダ独自の税控除の必要性が高まる ■ 2025年までにカナダ産の水素をドイツへ輸出する等、水素輸出産業を確立する必要性が高まる 	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最大40%の税控除による米国と同等の水素関連インセンティブの創出 ■ 質の高い雇用条件が維持された水素事業の展開 	
控除詳細	クリーンテクノロジー	クリーン水素
	<ul style="list-style-type: none"> ■ クリーンテクノロジーへの投資額に対し30%の控除 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 再生可能エネルギーによる発電機、蓄電池 ➢ 低炭素な熱機器、乗用車 ■ 一定の労働条件を満たす事業者に30%のクレジットを、そのほかの事業者に20%を付与 ■ 予算は5年間で67億カナダ\$（6,090億円*1） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ IRAに準拠し、intensity tiersによって控除額が変動 <ul style="list-style-type: none"> ➢ CO2e 4.0kg以下/水素1kgで控除対象 ➢ CO2e 0.45kg以下/水素1kgで最大額控除 ■ 最大額では最低でも40%以上の控除を予定 ■ 一定の労働条件を満たさない事業者は控除を10%削除



出典：Government of Canada “Fall Economic Statement 2022” *1:1カナダドル91円で換算